日本演劇学会2023年度全国大会「歴史と演劇」プログラム

6月23日（金）	前夜際　　A-301
18:20	受付開始　A-301前
18:45	〈特別イベント〉「歌舞伎の発掘映像を見る～国立映画アーカイブ所蔵 林又一郎コレクションより」 共催：国立映画アーカイブ
	解説：児玉竜一（早稲田大学） 司会：林公子（近畿大学）
20:45	

6月24日（土）	大会1日目		
9:30	受付開始　A-301前		
10:00	開会式　　A-301		
	担当校挨拶：林公子（近畿大学） 会長挨拶：小菅隼人（慶應義塾大学）		
10:30	研究発表①　Room1　A-203	研究発表②　Room2　A-205	研究発表③　Room3　A-102
	司会　平林宜和（早稲田大学）	司会　平川大作（大手前大学）	司会　永田靖（大阪大学）
	・温彬（大阪大学大学院） 「全徳―朱子学の視点からみた朱有燉の演劇教化観―」	・川野真樹子（明治大学大学院） 「坪内逍遥の『ハムレット』―ガートルード造形から写実的上演の試みを探る―」	・王楽水（立教大学大学院） 「歌舞伎興行にみる松竹の興行戦略の維持（1945-1959）」
11:10	・高秉旭（韓国映画振興委員会） 「韓国最初の新派劇の特徴―日本原作『蛇の執念』の『不幸天罰』から見る親孝行」	・氏原健太（学習院大学大学院） 「岸田理生における映画脚本の位置づけ―映画『少女娼婦けものみち』（1980）を題材にして―」	・羽鳥隆英（熊本県立大学） 「大正中期「新国劇」公演史―地域紙「演芸」欄を読み直す」
11:50	・物部ひろみ（同志社大学） 「戦争と覚醒する民族的誇り―1940 年代日本の演劇が描くハワイ日系人」		・日比野啓（成蹊大学） 「沖縄演劇史を日本演劇史に接続する：知念正真『コザ版ゴドー』（1988）を手がかりとして」
12:30	昼休み		
13:30	〈基調講演〉「ノエル・ペリーの能楽研究―その根底にあるもの―」　A-301		
	講演：天野文雄（大阪大学名誉教授） 司会：林公子（近畿大学）		
15:00	休憩		
15:15	パネル発表①　Room1　A-203		パネル発表②　Room3　A-102
	「河竹黙阿弥の明治－歴史の転換期における歌舞伎の変容」 今岡謙太郎（武蔵野美術大学） 高橋和日子（早稲田大学大学院） 赤井紀美（早稲田大学坪内博士記念演劇博物館） 司会：児玉竜一（早稲田大学）		「演劇教育研究の歴史～1990年以降30年間の動向」 中島裕昭（東京学芸大学） 花家彩子（東京学芸大学） 司会：高山昇 （日本大学）
17:15			
17:30	懇親会　　ブロッサムカフェ3F 多目的ホール		
19:30			

6月25日（日）	大会2日目		
9:00	受付開始　A-301前		
9:30	〈オンライン対談〉「Ping Chong 氏に聞く～アメリカ演劇と民主主義」　A-301		
	Ping Chong（演出家、振付家、映像アーティスト、Ping Chong and Company 創設者） 鴻英良（演劇研究） 司会・通訳：阪本洋三（近畿大学）		
11:30	昼休み 理事会　A-共同研究室		
13:00	総会　　A-301		
	河竹賞授賞式　A-301		
	受賞者挨拶 河竹賞：岩井眞實『近代博多興行史－地方から中央を照射する－』 河竹賞奨励賞：大崎さやの『啓蒙期イタリアの演劇改革―ゴルドーニの場合 』		
14:40	休憩		
14:55	研究発表④　Room1　A-203	研究発表⑤　Room2　A-205	研究発表⑥　Room3　A-102
	司会　藤崎周平（日本大学）	司会　萩原健（明治大学）	司会　岩井眞實（名城大学）
	・松本俊樹（大阪音楽大学） 「「聖と俗」の間の生駒歌劇―郷土史の観点から」	・河野英二（近畿大学） 「カール・クラウスの諷刺パフォーマンスにおけるナチス問題 ― 遺著『第三のワルプルギスの夜』とオッフェンバック朗読をめぐって ―」	・児玉絵里子（京都芸術大学） 「琉球宮廷舞踊の成立―若衆踊・古典女踊りの所作（型）・歌詞等の特質と大和文化―」
15:35	・富山隆広（法政大学大学院） 「時局能の変遷と歴史的意義―〈忠霊〉と間狂言を視座に―」	・高橋慎也（中央大学） 「ハイナー・ミュラー演出『トリスタンとイゾルデ』におけるミュラーの歴史観」	・杉本亘（大阪大学大学院） 「幕末・明治初期の遣外使節と饗応演劇」
16:15	・鎌田麻衣子（東京学芸大学） 「高山図南雄の演劇論―スタニスラフスキーと演劇教育の接点に着目して」	・横堀応彦（跡見学園女子大学） 「劇場の歴史を演出に取り入れる：ミロ・ラウ演出『ヴィルヘルム・テル』をめぐって」	・堤春恵（歌舞伎研究） 「明治１２年の外交と外賓の新富座招待」
16:55	閉会		